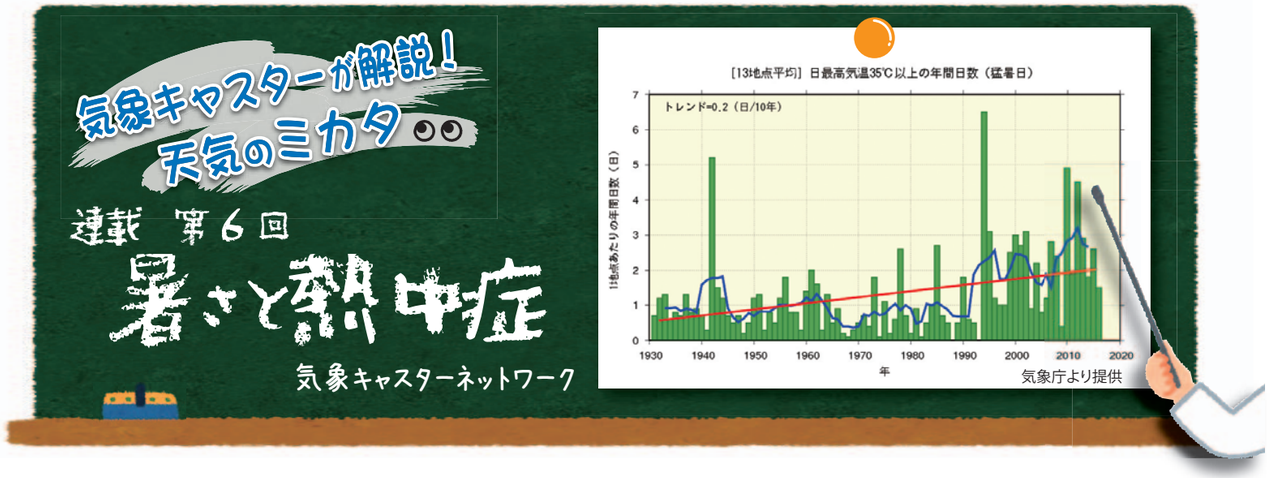


暑い日が増えている

「41.0℃」。これが日本の最高気温の記録です。2013年に高知県の江川崎というところで観測されました。想像するだけで気が滅入るような暑さです。私の地元、群馬県前橋市でも、過去に40.0℃を記録したことがあります。近年、地球温暖化などの影響で、暑い日が増えていて、35℃以上の猛暑日も、昔と比べて増加しています。30年ほど前は、東京における猛暑日といえば、ひと夏に1日ほどでしたが、今では5日くらいと増加しています。最低気温が25℃を下回らない熱帯夜も16日から30日と倍増していて、昼も夜も暑い日が増えているのです。私が生まれた頃と今とでは、こんなにも気温が変化しているのかと、驚きを隠せません。

体感温度は、さらに高い！

気象の観測は自動で行っており、その観測を行う「アメダス」は、全国に1300か所ほどあります。雨量だけを観測しているところもありますが、約840か所では、雨量に加え、気温や風向風速、日照時間という4つの要素を観測しています。

では、気温はどのように観測されているのでしょうか。実は、温度計があるのは、通風筒という筒の中。そのため、直射日光は当たっていません。また、芝生の上、1.5メートルの高さで観測し、筒の上部にある電動のファンにより、常に外気を取り入れるようにしています。つまり、私たちが実際に炎天下で感じる暑さとは異なるのです。

通風筒（気象庁HP）

私は、去年の夏、地上1.5メートルの日陰と日向の気温、また日向の地面付近の気温を観測して比較してみました。

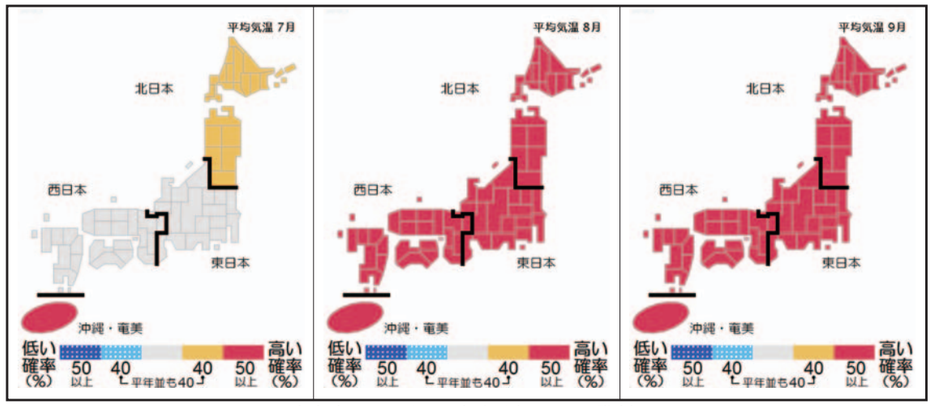
アメダスと同様に、直射日光が当たらない日陰で、地上1.5メートルの高さで測った気温は約25℃でしたが、同じ高さの日向では30℃以上ありました。さらには日向の地面付近は50℃近くもありました。

天気予報でお伝えする予想最高気温よりも、体感温度は5℃くらい高いと思って、一層の注意を払ってもらいたいと思います。

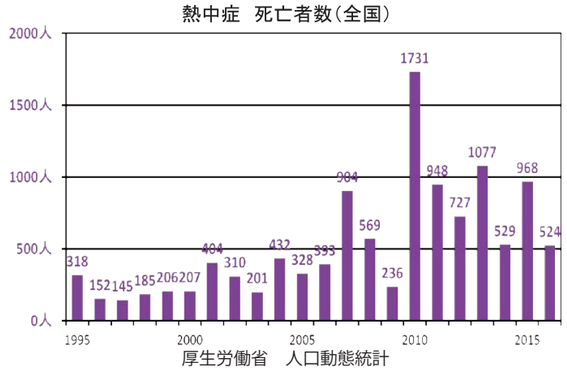
また、夏の日中に外出する際は、できるだけ日陰を選んで歩き、地面に近いペットや子供などには、より気を配ってあげることが大切です。

暑さも災害

大雨や暴風、大雪などと同様に、極端な暑さも災害です。去年の夏は、熱中症により524人の方が亡くなりました。特に暑い夏となった2010年には1731人もの命が、暑さにより失われたのです。暑い日が増えている今、熱中症の危険と隣り合わせです。特に、まだ体が暑さに慣れていない、梅雨明け直後に熱中症患者が急増する傾向にありますので、注意が必要です。また、屋内でも熱中症になることがあります。高齢の方は、屋外よりも屋内で熱中症になる方が多いのが現状です。高齢の方は暑さを感じにくくなるため、温度計を常に確認し、エアコンを適切に使うことが重要です。そして案外多いのが夜間の熱中症。寝る前に水分補給をし、状況によってはエアコンを使用するなど、夜も熱中症に気を付けなくてはなりません。



気象庁HP　3か月予報より（6月23日発表）

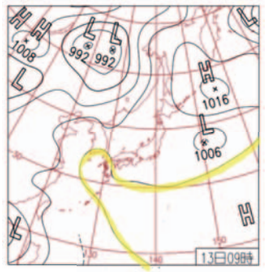


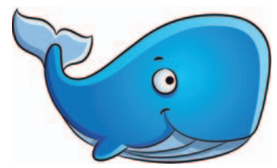
今年の夏も暑い

今年も暑い夏が予想されています。夏の暑さをもたらす、太平洋高気圧とチベット高気圧が、ともに平年よりも勢力が強い予想なのです。特に、8月は全国的に猛暑となりそうです。9月にかけても全国的に平年よりも気温が高い予想で、残暑も厳しいと予想されます。今年の夏は、長期にわたって暑さとの闘いとなりそうです。

ということで、この夏も、天気予報をこまめにチェックして、熱中症予防に役立てていただきたいのですが、その際、天気図にあるものが見えたら要注意！それは「クジラの尾」です。2013年に高知県で41℃を記録した時の天気図にも表れています。日本を覆う高気圧に注目してください。クジラを横から見た形に見えませんか？九州付近にはクジラの尾が見えるのではないでしょうか。この天気図は、「クジラの尾型」といって、暑くなる典型的な気圧配置です。天気図に、このクジラの尾が見えたら、暑さに一層の警戒が必要です。

夏休み期間は、部活動やイベントなど、屋外での活動が増える時期です。管理する方は、暑さへの対策を十分に行うようにしてください。




2013年8月13日の天気図「クジラの尾型」　気象庁HPより（一部加工）

関口（せきぐち）　奈美（なみ）　Profile

気象予報士、防災士
群馬県出身。2010年に気象予報士を取得。
2013年からNHKの気象キャスターとなり、現在は、首都圏ネットワーク、首都圏ニュース845の気象情報を担当。
趣味はパン作り。